

第1回 国道106号宮古地区防災対策検討協議会の概要

- 1 日時 : 平成30年9月10日(月)
13時30分~14時50分
- 2 場所 : サンセール盛岡(盛岡市志家町)

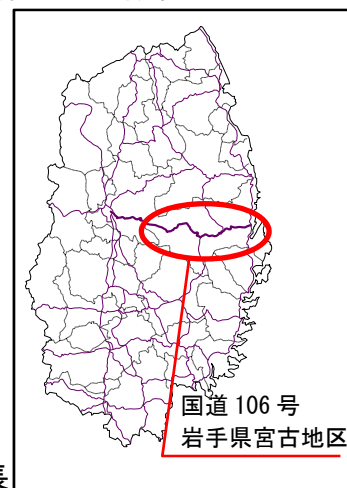
3 出席者

(委員)

- 南 正昭 岩手大学理工学部教授
井良沢 道也 岩手大学農学部教授
船木 仁 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所副所長
上澤 和哉 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター所長
田中 隆司 岩手県県土整備部道路建設課総括課長

(オブザーバー)

- 佐々木 博樹 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所調査第二課長
佐々木 健 岩手県盛岡広域振興局土木部道路河川室長



4 議事

- (1) 国道106号の概要及び現状と課題
(2) 整備の必要性及び優先整備区間の考え方
(3) 今後の検討の進め方

5 議事内容(主な意見等)

- 国道106号の概要及び現状と課題について了承。
- 河川との並行区間や、土石流危険箇所が存在、亀裂が多く発達した岩が分布する地形条件であり、技術的課題として高度な技術検討が必要であることについて了承。
- 整備の必要性及び優先整備区間の考え方について了承。

【整備の必要性】

- (1) 自然災害に強いネットワークの確保
- (2) 信頼性の高いネットワークの確保
- (3) 観光・産業の活性化
- (4) 救急医療施設への速達性向上

【優先整備区間】

防災上の課題が集中している はこいし たつそべ ねいち ひきめ 箱石~達曽部、根市~墓目 の2区間とする。

- 次回の協議会では、以下の意見を踏まえた整理・分析を行った上で、整備方針案の検討、技術的課題の整理等を議論することについて了承。
 - ・ 平成28年台風第10号による重大な交通障害があった点は、本路線を検討する上で大きな要件である。
 - ・ 河川氾濫による道路崩壊箇所の被災メカニズムや落石発生原因を分析することは、有効な整備方針案の検討に繋がると考えられる。
 - ・ フェリー就航による効果を整理することにより、物流需要など国道106号の重要性をより深めることができる。